

わだちとわ

NARA COLLEGE of ARTS
2020
轍と輪



と

わ

VOL.
06
2020
10

奈良芸術短期大学 広報誌 「わだちとわ」vol.06

発行／奈良芸術短期大学
企画編集／広報課 デザイン・印刷／グラフィックデザイン事務所 発行日／2020年10月17日



編集後記

思いもしていなかった新型コロナウイルス感染拡大によって、地球規模で大きく生活が変わりました。奈良芸では、安心安全を確保しながら、6/1から通常授業が始まり学生たちがキャンパスで思いっきり制作に向かっています。建学の精神である『教育は環境なり』を改めて実感しました。

広報課では、学生や卒業生の活躍を紹介し、さまざまところへ繋げて行きたいと考えています。皆様の活躍の報告を楽しみにしています

定期購読サービスご利用案内

卒業生の“今まで”と、在学生の“これから”を軸とし、1つの輪として展開する「わだちとわ」(年2回発行)の定期購読をご希望の方は、送付先を広報課までご連絡ください。また、「わだちとわ」では卒業生の受賞や活動報告なども募集しています。

美術科	洋画	日本画	デザイン ・グラフィックデザイン ・メディアデザイン ・イラストレーション	陶芸	染織	クラフトデザイン ・メタル ・テキスタイル ・ウッド	・ガラス ・ジュエリー ・レザー
専攻科							

学内見学や相談は、オープンキャンパスや行事以外でもお気軽に広報課までご連絡ください。
〒634-0063 奈良県橿原市久米町222 TEL.0744-27-0625 E-mail. nyushi@naragei.ac.jp

詳しくはHPへ [奈良芸](http://www.naragei.ac.jp) www.naragei.ac.jp



1 卒業生／片邊 ゆまさん
2011年3月 洋画コース卒業
2013年3月 専攻科／洋画修了
大阪府出身

2 在学生／中西 結麻さん
専攻科／洋画2回生 三重県出身

3 在学生／上村 鼓太郎さん
専攻科／洋画1回生 大阪府出身

見たちに伝えたいと思っています。今日もひまわりを描いたのですが、一緒に観て「大きいね、触ってみてガラガラしているね」など話しながら進めました。これは私自身が奈良芸で学んだことなので、凄く活かされていると思います。

上村 私は、中学校美術教諭の資格を取得するために教職課程をとっているのですが、聖心幼稚園に就職した決め手は何ですか。

片邊 主任の先生に勧められたことかきつかけです。それまで、深く子どもと接したことがなかったのですが不安はありませんが、面白そうだったので頑張ってみました。と思いました。上村くんは先生になりたいんですよね。

上村 教職をとった初めの頃は、自分に一番近い仕事かと思っていましたが、最近になって、少しずつやってみようと思うようになってきました。

片邊 凄く良いことだと思いますよ！

上村 はい。教職課程を履修して良かったと思っています。

わだちとわ座談会

洋画コース

在学生 × 卒業生

奈良芸で交差する素敵なめぐり合いを、それぞれの未来へつなげてください。

入学のきっかけは、基礎からしっかり学べる、美術教諭の資格が取得できる、熱意。

片邊 上村くんは奈良芸に入学したきっかけは何だったんですか。

上村 高校生の頃から油絵を描いていたので、美大に進学したいと思っていました。なので、油絵をしっかりと学べることや実家から通いやすかったこと、学費面などで奈良芸に決めました。

片邊 中西さんの入学のきっかけは何ですか。

中西 私は、中学校美術教諭の資格を取得できる美大を探していたので、奈良芸を選択肢の一つとして考えるようになりました。それで、オープンキャンパスに行き、モデルさんを描く体験授業に参加したのですが、先生が人体の魅力や美しさなどを熱心に話してくださったので、こんな熱意のある先生がいっしょに大学で学べるのであれば、きっと成長できると思いました。

片邊 先生の情熱にやられたんですね！

中西 はい、そうです！

片邊 はい、そうですね！

片邊 卒業後の目標はありますか。

中西 中学校の美術教諭になって、美術が不得意と感じている生徒を少しでもなくしたいと思っています。

上村 中学校の美術教諭はもちろんですが、幼稚園や絵画教室などで絵を教えることも視野に入れています。そして、創作活動を続けて、個展を開催していきたいです。

美大への入学を志す高校生へ。

中西 奈良芸は実技中心のカリキュラムで制作時間が多いので、自分と向き合う時間が多くなります。作品は自分の中から出てくるモノで、それをより良くしようという研究するのの人として成長できると思います。

思い出は創作活動。

中西 在学時には、色んな行事に参加されたり、さまざまな学びがあったと思います。一番印象に残っていることは何ですか。

片邊 それはもう、創作活動につきますね。特に、美術科2回生から専攻科生になる頃に自分の表現方法についてずっと悩んでいたことを覚えています。中西さんは専攻科2回生ですよね、何か悩んでいることはありますか。

中西 奈良芸は、基礎から丁寧に指導してくださるので、美術科生の時はしっかり観て描くことを学べたのですが、専攻科生に進学した今は、自発的な創作活動や意欲、姿勢などが求められるので、そのことは考えています。

片邊 もう、まさにそのことで悩んでいますよ。(笑)自分の表現したいことを考えて、それをカタチにしようとした時、頭が真っ白になったことを覚えています。

上村 今はどうですか。

片邊 もう、解決していますよ。

上村 今はどうですか。

片邊 もう、解決していますよ。

創作活動は、私の力の源。

上村 絵を描いていて良かったって思える時はどんな時ですか。

片邊 やっぱり発表する時ですね。今はSNSに投稿できますし、イベントに参加したりもします。作品を観ていただいたり褒めていただいたり、お客さんとコミュニケーションを取っている時に「頑張ろう！」って思います。卒業後は、幼稚園で絵画の先生をしているのですが、こういった創作活動は私の力の源になっているので、ずっと続けようと思っています。

中西 奈良芸で学んだことは、お仕事で活かされていますか。

片邊 対象をしっかりと観察して描いたり、何かを感じ取って描くといったことを園

上村 絵を描くことに興味があったり好きだと感じているなら思っていることや感じていることを表現して欲しいと思います。表現する場面では先生も先輩もみんな平等です。

片邊 奈良芸はとにかく環境が良いです。自然が豊かですし文化財もたくさんあります。そして、これまで深く美術に携わったことがないという人でも基礎から学べるので良い大学だと思います。



無理だと思っていた美大受験。

小さな頃から絵と子どもが好きだったことから、将来は絵本作家になりたいと思うようになりました。ただ、親には地元の国公立大学に進学することを望まれていたので、美大に行きたいと打ち明けた時には猛反対されました。でも、どうしても諦めきれず、高校の先生に相談したところ奈良芸をすすめてくださいました。女子寮が完備されていて、学費面が経済的で、中学校美術教諭の資格が取得できる美大だったので、これらの環境面と、強い意志を伝えて、何とか入学することができました。

奈良芸での学びと交流。

広告制作やレタリング、イラストレーションなどさまざまなことを学びました。ただ、私は作業スピードが凄く遅かったんです。丁寧な作業を心がけていたからなのですが、課題の提出日に間に合わないこともありました(笑)。でも、先生方はそのことを踏まえて評価し、いつも気にかけてくださっていたように思います。また、授業で使っていたマニュアルの一眼レフカメラをいつも持ち歩いていた。学内の素敵な女の子は、ほとんど撮影したと思いますよ(笑)。放課後には他コースの教室で作品を見たりモノづくりをさせてもらったりと、先生や友達とたくさん交流できたことは今でも大切な思い出であり、財産だと感じています。

就職と作家活動の両立。

卒業後は、主任の先生に紹介していただいたパッケージ設計会社に就職しました。また、同時に雑貨アーティストとして活動し、グループ展などにも参加していました。その後、デザイン事務所や編集プロダクション、システム会社などでキャリアを積み、2015年にみずうみデザイン室をスタートさせました。ロゴ制作をはじめ、デザイン全般を手掛けていますが、最近はパッケージを含めたブランディングの仕事が多くなっています。

「好き」がパッケージ制作に集約。

中高時代からおしゃれな雑貨に憧れていました。また、これは最近自覚したのですが、リサーチをすることも大好きだったんです。例えば、雑誌を見て気になったデザイナーやイラストレーター、フォトグラファーがいると、名前などのクレジットをチェックしていろいろと調べていました。在学中の私としては当たり前のことだったのですが、周りからは詳しいねと感心されていました。

パッケージというものは、雑貨的な可愛らしさや人の心をとらえるキャッチーさが必要と思っていて、市場構造を分析しながらどのポジションで商品を展開していけば良いかということを考えるのですが、その作業が楽しいんです。雑貨好き、リサーチ好きという私の性格がパッケージ制作に集約されているように思います。

「好き」をやってみて、はじめて向き不向きがわかる。

進路って悩むことが多いと思いますが、好きなことをやってほしいです。好きなことがわからない人は、周りから「これ好きだよね」「これ得意だよね」と言われていることに目を向けて欲しいです。そして、まずは何でもやってみること。そこで初めて向き不向きがわかると思います。大学の2年間は、そういうことをイキイキと見つける時間だと思います。

やってみて、初めて
向き不向きがわかります。



みずうみデザイン室

Profile
濱田佳世さん

福岡県在住 / 高知県出身
1997年3月 デザインコース卒業
現在、みずうみデザイン室代表
熊本デザイン専門学校非常勤講師
日本パッケージデザイン協会JFDA正会員
HP <https://www.mizu-umi.com>



デザインコース卒業

濱田佳世

Hamada Kayo



日本パッケージデザイン大賞2021入選
[食品部門]ダメヤ&GARAM | FUKUOKA CURRYシリーズ



日本パッケージデザイン大賞2021入選
[VI・BI部門]赤い風船ブランディング

何かをやろうと思ったなら、やり切ってください。

就職活動から一転、美大を受験。

高校生の頃から油絵や日本画を学んでいたのですが、当時は就職希望だったので就職活動に専念していましたが、とある会社の面接で面接官の方から「せっかく好きなことを学んできたのだから、大学に進学してからでも遅くはないよ。人生において今しかできないことがあるし、後悔しないようにしてほしい。その後、この仕事をしたかったのならその時にまた受ければ良い。」と言われ、その言葉で美大への進学を決意しました。ただ、その時点で2月だったのでほとんどの大学の試験は終了していました。そんな中、担任の先生が奈良芸大指定校で受験できると教えてくださったので、大学見学に行き各コースを見たり作品展を鑑賞しました。

作品に魅せられ、染織コースを選択。

染織コースを案内してくださった時に、デザインされて染められている着物やタブローを初めて見ました。それらの作品には、それまで自分がやっていた絵画にはない、色の重なりや透明度、鮮やかさがあり、どれも新鮮に感じました。ただ、染織は身近なモノではなかったですし知識も全くなかったため、自分が取り組むということは想像しにくかったです。そんな時、教室にいらした先輩が「糸に触る機会もなかったと思うけど、みんな初心者からのスタートだから大丈夫ですよ。」って話してくださったので、もともと手に職をつけたいという思いがあり、作品を魅力的に感じたいため染織コースを選択しました。



ゼロからのスタート。

入学後すぐの頃は、知識や技術がなかったので不安でしたが、基礎から丁寧に指導していただきました。先生方との距離が近く気軽に質問できる環境があったので、作品制作を進めるうちに少しずつ技術が培われるのを実感できました。2回生に進級した頃には、徹夜でデザインを考えるなど制作に没頭するようになり、どんどん染織の魅力にハマってしまったので、専攻科への進学を決め、たくさん作品を制作しました。また、その頃グループ展に出展したり公募展にチャレンジしたことは凄く印象に残っています。

染めることに携わっていたい。

主任の先生の勧めで、京都の伝統産業における若手職人育成を目的とした事業に応募したことがきっかけで、現在の会社で働くようになりました。京友禅の自社ブランド「Pagong」(パゴング)の企画から生産、販売までを一貫して行っている会社です。その中で、調色と呼ばれる仕事に携わっており、データに基づき染料を計量し、染めるために必要な色糊の色合わせをしています。本当にわずかな計量のズレで色が変わり全て台無しになってしまうので責任重大です。デジタル化が進む中、全て手作業で行っているので大変な作業ではありますが、染め上がった色とりどりの鮮やかな和柄生地を見ると達成感を感じることができます。

やり切ることが大切。

学生の頃って特にそうなのですが、今、自分が置かれている状況は、今の自分にとって当たり前環境だと思ってしまふんです。そうすると不満が出てきます。でも、一歩外に出れば凄く恵まれていたことに気がきます。夢や目標を持つとは言わないのですが、何かをやろうと思って取り組んだからには、途中で投げ出さずにやり切ってください。自分が決めた道に後悔はないと思います。

Profile
畑井 泰大さん

大阪府出身
2012年3月 染織コース卒業
2014年3月 専攻科/染織修了
現在、株式会社亀田富栄工場勤務
HP <https://pagong.jp>



専攻科/染織修了

畑井泰大

Hatai Yasuhiro



オープンキャンパス開催

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、奈良芸は6/1から通常授業を開始し、学生たちは思いっきり制作に打ち込んでいます。それに伴い、6/21に午前・午後で各5組限定の「キャンパス見学&相談会」を開催。個別に工房やアトリエ等を案内し、進学の悩み相談など受けました。7/25.26.8/22には、例年より人数を制限して、各コースでの「実技体験&デッサン指導」を開催。自分の学びたいコースはどこなのか?どのコースが合っているのか?をじっくり体験、検討していただきました。また保護者の皆様に向けた説明会も実施しました。

全国公募 第4回鉛筆デッサンコンクール結果発表

奈良芸短期大学主催、全国公募「第4回鉛筆デッサンコンクール」には、28都道府県、49高等学校、6研究所からの応募があり、総数264点の応募がありました。厳正なる審査の結果、大賞、準大賞を含む41点の入賞・入選作が選ばれました。



大賞
吉咲良「me?」
京都精華学園高等学校



準大賞
田中 遥「日常」
三重県立菟野高等学校



準大賞
中村 仁南「やさしさ」
大阪府立港南造形高等学校

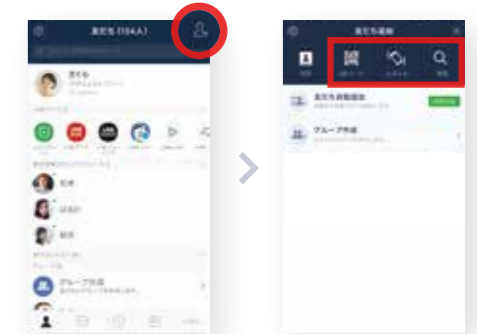
毎日開催オンラインオープンキャンパス

「オープンキャンパスに参加したいけど、新型コロナウイルス感染拡大の影響で・・・」「奈良芸に見学に行きたいけど自宅から大学までの距離が遠くて・・・」などの理由で悩んでいる人は必見!奈良芸では毎日オンラインオープンキャンパスを開催しています。



気になることをちょっと聞きたい人は「LINEチャット」で相談。
奈良芸公式アカウントから友達登録をして、トークで質問してください。

対応時間 月～金 10:00～16:00
土 10:00～12:00
*時間外は、自動応答になります。



★左のQRコードで登録/友だち追加>QRコード
★ID 検索で登録/その他>友だち追加>ID(@naragei)



他の人の相談を見てみたい、もしくは広報課の人や先生に直接相談したいという人は「相談会サイトビダイズ」をチェック。

【先生が回答する】美術系の進学相談会サイト

ビダイズ



コースのことをざっくり知りたい人は、「YouTube」で配信動画をチェック。

YouTube



質問したその場で話を聞きたい人は、「SHOWROOM」のライブ相談会。
配信日時はSHOWROOM内で確認できます。



じっくりとお話をしたい人は、奈良芸広報課に直接お電話ください。
または、奈良芸広報課まで直接メールにてご連絡ください。

tel. 0744-27-0625
mail. nyushi@naragei.ac.jp

対応時間 月～金 10:00～16:00
土 10:00～12:00



大和の妖怪イラスト

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、疫病退散の妖怪「アマビエ」に注目が集まりましたが、毎日新聞では、奈良県の妖怪にスポットを当てた「大和の妖怪たち」を連載することとなり、デザイン広報サークルの学生5名がイラストで協力しました。1日目の「鬼」から始まり、「天狗」「河童」「砂かけばあ」「土蜘蛛」「猫また」の5日間で、奈良県に伝わる妖怪のお話や歴史上初めて鬼を倒した逸話、妖怪が生まれた経緯などが紹介されました。
2020.8.14.18.19.20.21毎日新聞



陶芸コース「楽焼」

8月の炎天下の中、陶芸コースでは楽焼を行いました。気温もさることながら、釜の温度は約1200℃もあるので、近づくだけで熱気が凄いです。釜に入れる前と後では作品の表情が変わるので、みんなハラハラドキドキです。そんな中、汗だくになって釜から作品を取り出し、焼き上がった色目を見て「おおお!」と歓声が湧き上がっていました。思っていた通りに仕上がった作品や予想を超えたキラキラした仕上がりの作品などその表情はさまざまでした。



日本画コース進級制作展

日本画コース2回生の進級制作展では、50号・変形50号の作品を聖心会館ギャラリー一っぱいに展示しました。モチーフは、学内や大学周辺の風景や植物。日頃何気なく見ているモノがモチーフになります。地方から来ている学生は、自分の作品をスマホで撮影して地元の友達に送っていました。

日 時:6月8日(月)~6月11日(木)
場 所:聖心会館ギャラリー



Instagram始めたっち

本学公式キャラクターのシカっち☆がInstagramを始めました。大学案内に掲載されていない写真や学生の作品、奈良芸の日常などを紹介していきます。フォローよろシカっち☆

高山竹あかりポスター完成

竹製品の里、奈良県生駒市の「高山」で毎年開催されている、夜の静寂を楽しむイベント「高山 竹あかり」2014年から産官学連携でデザイン広報サークルが関わらせていただき、今回も2020年のポスターを作成しました。デザインコース(メディアデザインクラス2回生)の中山ほのかさんがデザインを担当、ロゴマークは、2018年に田中優衣さんがデザインしたモノを使用しました。上品で印象深いデザインで、関係者からも喜ばれました。

会 期:2020年10月10日(土)11日(日)
会 場:高山竹林園



66 将棋がアプリに

決着がスピーディで初心者でも気軽に楽しめると大人気の「66将棋」がアプリゲームとして登場。洋画コースの卒業生で、本学デザインコースでゲームデザインやキャラクターゲームの授業をしている北村真二先生(STUDIO SHIN)が、天童商工会議所とコラボし、自身が開発した将棋アプリ「将棋盤」で66将棋を楽しめるようにしました。Bluetoothでの対戦ができたり、タップすると駒の動ける方向が表示されたりと初心者から熟練の人まで楽しめます。今後は、オンライン対戦もできる予定なので、世界的に「66将棋」がブレイクの予感です。※将棋盤はAppleStoreで無料ダウンロードできます。



クラフトデザインコース進級制作展

クラフトデザインコースの進級制作展では、6つのメディア(素材)毎に展示方法や作品の見せ方、ライティングなどいろいろな工夫をしています。そして、展示終了後には合評会が開催され、作品に対する思いを学生が語り、制作の姿勢や完成した作品を見て先生が講評しました。その様子から先生と学生の絆が見えるようでした。

日 時:6月16日(火)~6月19日(金)
場 所:聖心会館ギャラリー



染織コース進級制作展

染織コースの進級制作展では、伝統的な染織の技法や個性をいかした作品を色鮮やかに展示しました。1年間で学んだ染・織の基礎基本を作品に表現しています。また、タイトルと作品を照らし合わせてみると更に奥深く感じられます。藍のグラデーションも間近でみると制作の工程が知りたくなりますよ。

日 時:6月22日(月)~6月27日(土)
場 所:聖心会館ギャラリー

